

# 那珂川市のお財布

～令和5年度決算～

## 目次

### ダイジェスト編

1. 2つのお財布	2	ページ
2. 市の決算(令和5年度)		
①収入と支出について (普通会計)	2~3	ページ
②こんなことに使いました	4	ページ
3. 財政状況比較～他の市町と比べてみよう～		
①経常収支比率	5	ページ
②財政力指数	6	ページ
③財政健全化判断比率と資金不足比率	7	ページ
4. 家計の疑問		
①貯金について～基金～	8	ページ
②借金について～市債～	9	ページ
③職員の給与について～人件費～	10	ページ
④収入のゆくえについて～市税と地方交付税の動向～	11	ページ

### 資料編

1. 収入と支出について (令和5年度決算)		
①普通会計 (歳入、歳出：性質別・目的別)	13~14	ページ
②特別会計	15~18	ページ
2. 市の家計の疑問(補足)		
①市の健康状態～プライマリーバランス～	19	ページ

### 1. 2つのお財布

お金の出し入れの年間計画である予算は、2つの財布に振り分けられています。通常出し入れするお金は「一般会計」という財布、そして特定の事業のためだけに使うお金は「特別会計」という財布です。

一般会計は、教育に関する分野、福祉や子育て支援に関する分野など、行政を運営する上で最も基本的な事業を管理するものです。

特別会計は、一般会計から切り離して独立した財布で事業を管理するものです。令和5年度は、公共用地先行取得事業、国民健康保険事業、介護保険事業、後期高齢者医療、岩戸財産区、安徳財産区、南畠財産区、下水道事業の特別会計がありました。

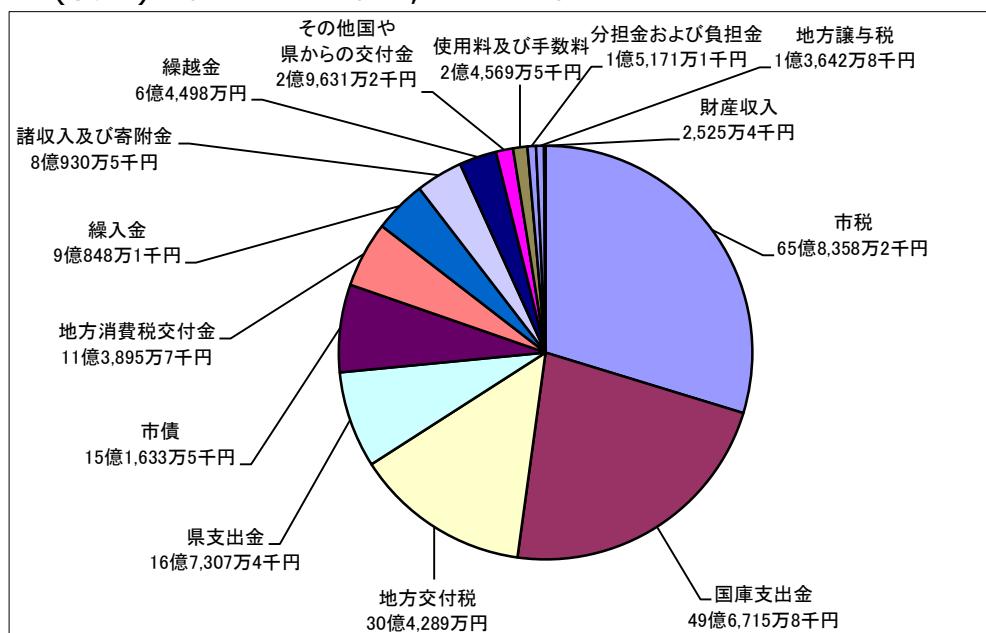
なお、本市では一般会計と公共用地先行取得事業特別会計を合わせて「普通会計」としています。

### 2. 市の決算(令和5年度)

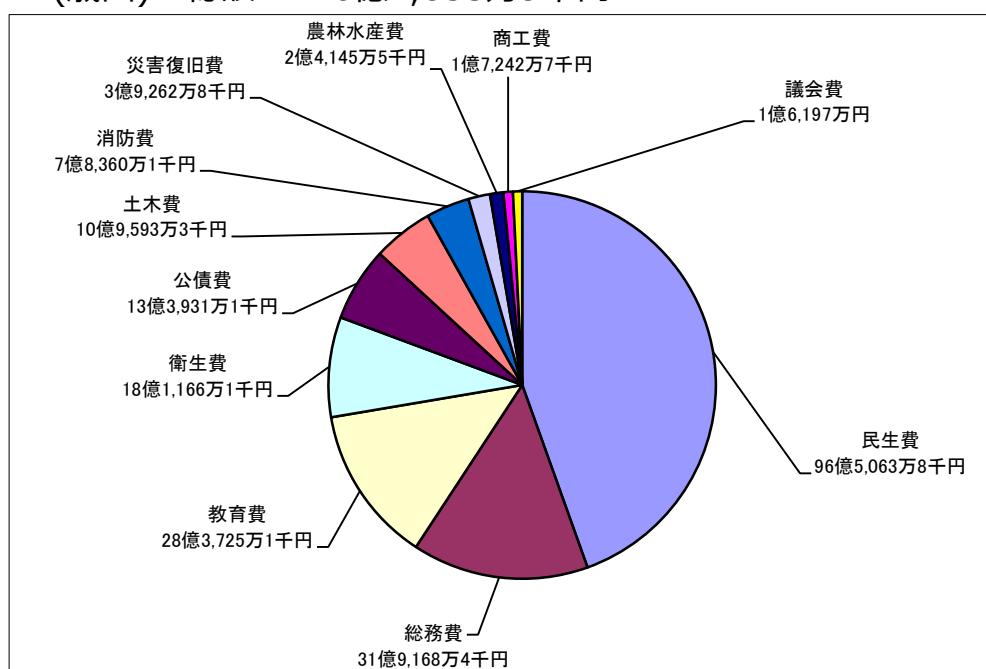
#### ①収入と支出について(普通会計)

本市に令和5年4月から令和6年3月まで（令和5年度）に入ってきたお金（歳入）は221億4,016万2千円で、使ったお金（歳出）は216億7,855万9千円でした。入ってきたお金と使ったお金との差引は4億6,160万3千円です。このうち、翌年度に繰り越して事業を行う金額が1億8,432万円あるので、実質的な収支としては2億7,728万3千円の黒字となります。しかし、歳入の中には財源不足を補うために借り入れた市債（臨時財政対策債）を5,633万5千円含んでいますので、借り入れを除くと2億2,094万8千円の黒字となります。

(歳入) 総額：211億4,016万2千円



(歳出) 総額：216億7,855万9千円



※地方消費税交付金（社会保障財源交付金）が充てられる社会保障施策に要する経費

単位：千円

事業名	決算額	財源内訳				
		特定財源			一般財源	うち、地方消費税交付金 (社会保障財源化分)
		国県支払金	市債	その他		
社会福祉（児童福祉や障がい者福祉に要する経費など）	6,522,856	4,411,532	0	168,366	1,942,958	509,456
社会保険（国民健康保険や介護保険に要する経費など）	1,133,934	270,815	0	0	863,119	65,527
保健衛生（高齢者医療や疾病予防に要する経費など）	1,407,230	279,817	0	3,526	1,123,887	94,926
合計	9,064,020	4,962,164	0	171,892	3,929,964	669,909

○平成26年4月からの消費税増税に伴う地方消費税交付金の増収分については、消費税法第1条第2項に規定する経費その他社会保障施策（社会福祉、社会保険及び保健衛生に関する施策をいう）に要する経費に充てることとされており、本市では上記のとおり関係する事業に充てられました。

②こんなことに使いました

## 令和5年度の主な事業

### 低所得世帯 特別支援金 給付事業

6億3,158万円

物価高騰の影響を受けている低所得世帯に対して特別支援金を支給し、家計の支援をしました。

### 道善・恵子地区 幹線道路等 整備事業

2億6,787万円

土地区画整理事業に併せて、交通結節点機能の向上と総合運動公園へのアクセス性を確保するため、幹線道路および交通広場の整備を支援しました。

### 防災重点 農業用ため池 緊急整備事業

4,237万円

劣化状況評価および地震豪雨耐性評価を実施し、現在の施設状況の確認をしました。また、南面里大池の安全性を確保するための実施設計を行いました。

### 給食費 物価高騰 対策事業

1億903万円

物価高騰の影響を受けている小中学校の保護者の経済的な負担軽減を目的とした給食費の補填および栄養バランスを保った学校給食を提供するための補助を実施しました。

### ミリカローデン那珂川リニューアル事業

7億3,628万円

将来にわたって市民の文化芸術活動の拠点となる魅力ある施設にするため、図書館および松口月城記念館の改修工事を実施しました。



### 3. 財政状況比較～他の市町と比べてみよう～

令和5年度のお財布の状況は他の市町と比べるとどうだったのでしょうか？

ここではいくつかの指標をもとに検証します。

#### ① 経常収支比率

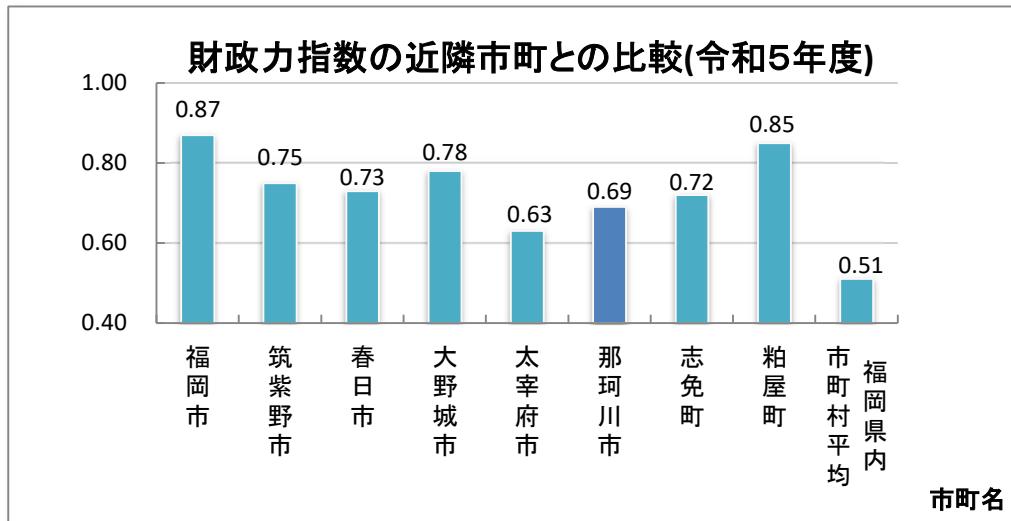
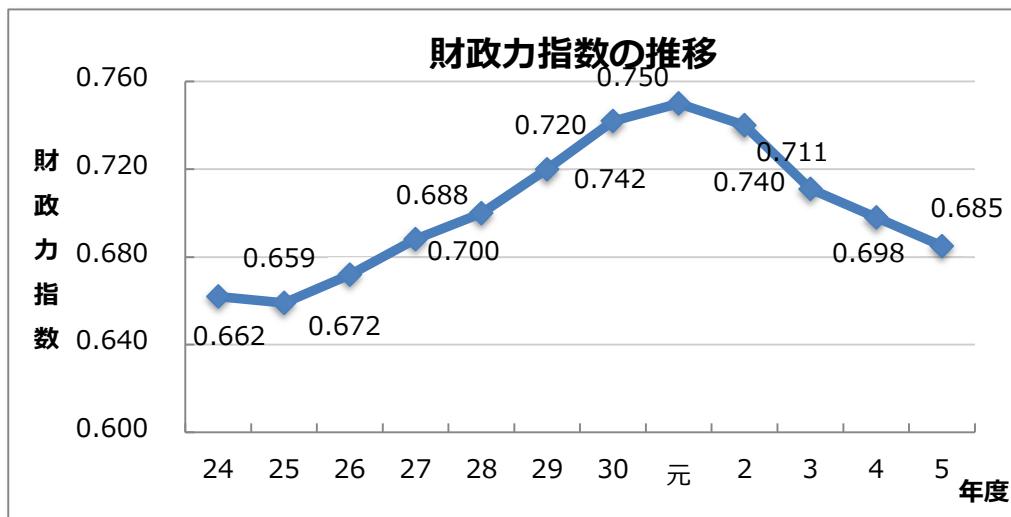
地方税や地方交付税などの自由に使って毎年欠かさず入ってくる収入が、人件費や扶助費（お年寄りや子どもなどを支援するお金）、公債費（借金を返済するお金）などの毎年欠かさず必要となる支出にどれだけ充てられたかを示す比率のことです。この比率が低いほど、お財布にゆとりがあり、新たなサービスの提供や臨時の出費など、柔軟に対応することが可能となります。



経常収支比率は、平成29年度以降上昇傾向にあり、令和2年度に減少に転じましたが、令和5年度は令和4年度決算と比べて2.2ポイント増加しました。これは、人件費や扶助費の増加により支出は増えた一方、地方税や地方交付税等の増額があったものの、国により地方の財政の健全化を図るために臨時財政対策債の発行額が大幅に縮減されたことで、計算式の分母である経常一般財源総額が減少したことが要因です。

## ②財政力指数

標準的に入ってくることが見込まれる税収入など(一定の方式で計算した額)を、標準的なサービスを行うために必要な支出で割った数値の過去3ヶ年平均のことです。この数値が高いほど財政基盤が強いことになります。



財政力指数は、平成25年度に0.659で、その後上昇を続けて令和元年度は0.750となっていましたが、令和2年度に減少に転じ、令和5年度は0.013ポイント減少して0.685となりました。

県内市町村との比較では、県内平均よりも高い水準となっていますが、近隣の市町をみると本市よりも高い数値となっている市町もあります。

### ③財政健全化判断比率と資金不足比率

#### ( i )財政健全化判断比率とは・・・

財政健全化判断比率とは、地方公共団体の財政状況を客観的に表し、財政の早期健全化や再生の必要性を判断するために定められた4つの指標（実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率）のことを指します。平成19年度決算から公表することが義務付けられており、現在の財政状況が赤字か黒字か、資金繰りや将来の財政状況がどのような状態になるか表したものとなっています。

#### 令和5年度財政健全化判断比率

(単位：%)

	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
那珂川市	—	—	7.3	—
早期健全化基準	13.22	18.22	25.0	350.0
財政再生基準	20.00	30.00	35.0	

○実質赤字比率は、普通会計の赤字の程度をあらわす指標のことです。

○連結実質赤字比率は、普通会計を含むすべての会計の赤字の程度をあらわす指標のことです。

○実質公債費比率は、一般会計の借金返済額に加え、特別会計や一部事務組合などへの補助金などのうち借金返済額に充てた額など、市が実質的に負担する借金返済額の割合をあらわす指標のことです。

○将来負担比率は、市全体の将来負担すべき借入金の返済に充てることができる基金などに対して、将来支払が見込まれる借入金等の返済額が占める割合をあらわす指標のことです。

○算定の結果、赤字額や将来負担額がない場合は、「—（該当なし）」で表示しています。

○早期健全化基準 超過の場合 ⇒ 財政健全化計画の策定 ⇒ 議会の議決 が必要となります。

○財政再生基準 超過の場合 ⇒ 財政再生計画の策定 ⇒ 議会の議決 が必要となります。

#### ( ii )資金不足比率とは・・・

資金不足比率とは、公立病院や下水道などの公営企業の資金不足を、公営企業の事業規模である料金収入の規模と比較して指標化し、経営状態の悪化の度合いを示すものです。この指標についても、平成19年度から公表することが義務付けられました。

#### 令和5年度資金不足比率

	下水道事業
資金不足比率	—
経営健全化基準	20.0

○算定の結果、資金不足額がないため、「—（該当なし）」で表示しています。

○経営健全化基準 超過の場合 ⇒ 経営健全化計画の策定 ⇒ 議会の議決 が必要となります。

財政健全化判断比率や資金不足比率は、国が定めた早期（経営）健全化基準や財政再生基準を下回っている状況で、実質公債費比率は令和4年度決算と比べると0.2ポイント減少しています。

## 4. 家計の疑問

### ①貯金について～基金～

家計でいう貯金を基金と呼んでいます。これまで、将来の大規模な施設修繕や公園整備などに備えて、計画的に基金を積み立ててきました。

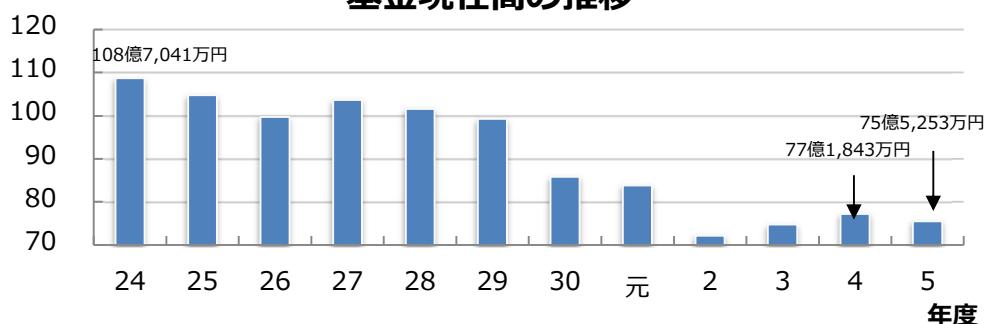
現在はそれぞれの目的に応じて一般会計で14の基金があり、主な基金と令和5年度末の現在高は、次のとおりです。

#### 主な基金

基金名	内容	現在高
財政調整基金	景気の変動や災害などにより一時的にお金が足りなくなつた時に補てんするため積み立てておくお金	17億7,403万4千円
退職準備積立金	職員の退職金に充てるため計画的に積み立てておくお金	15億1,104万6千円
減債基金	借り入れた市債（借金）の返済に充てるため積み立てておくお金	10億1,612万9千円
公共施設等整備基金	公共施設等の整備に充てるため積み立てておくお金	9億6,822万8千円
ふるさと応援基金	寄附者が希望する市の施策を実施するために積み立てておくお金	9億3,569万6千円

単位：億円

#### 基金現在高の推移



単位:万円

#### 住民一人あたりの基金現在高

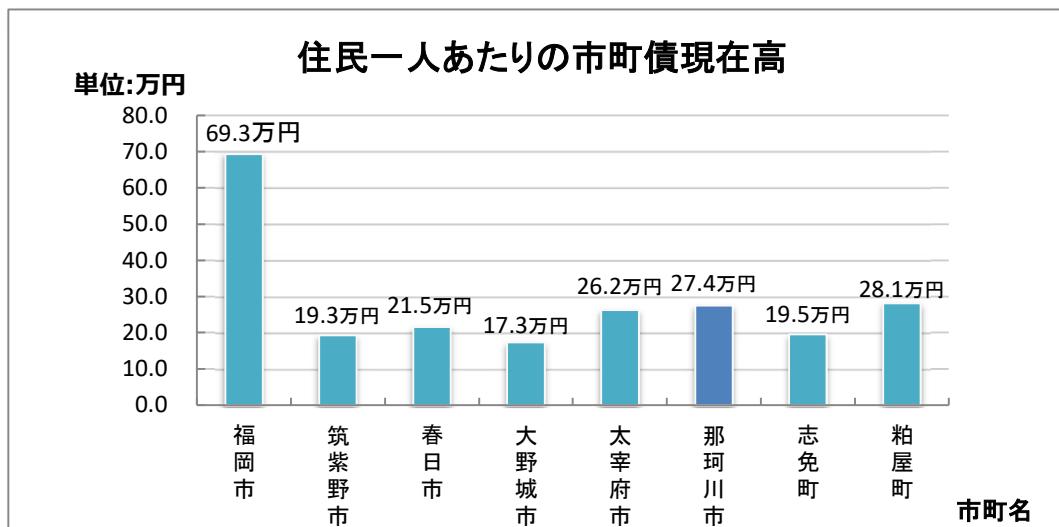
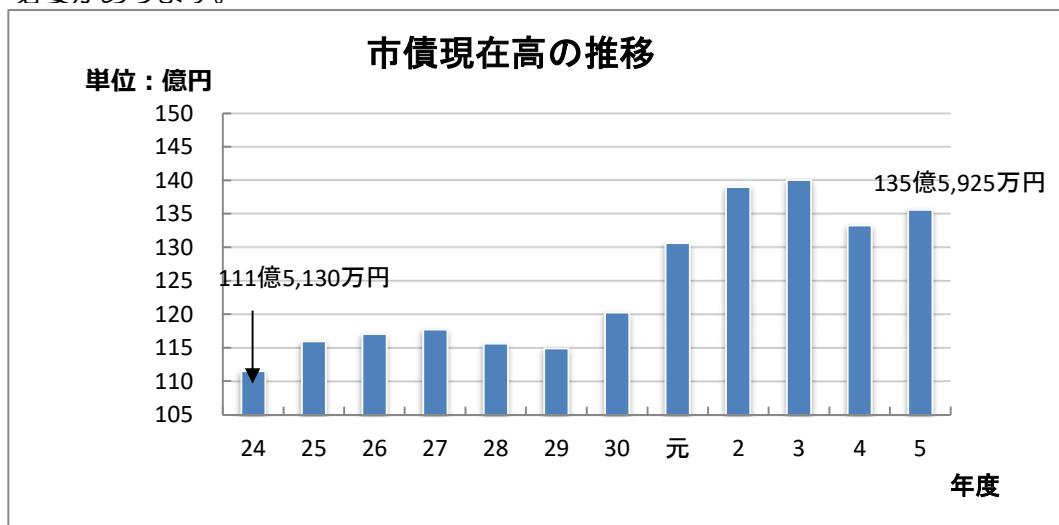


平成24年度末に108億7,041万円だった基金残高は、事業を実施するために基金の積立てと取崩しを行ったため、令和5年度末の残高は75億5,253万円に減少しています。これを住民1人当たりの金額におすと、約15万3千円となります。

## ②借金について～市債～

市債とは、国や銀行などから市が借りているお金のことです。借金というと良くないイメージを持たれるかもしれません、例えば、道路や公共施設のような将来にわたり住民の皆さまが利用するものを、借金をしないで整備を行うと、莫大な費用を現在の住民の皆さまだけが負担することになります。そこで、公平に将来の住民の皆さまにもその費用を負担していただくために市債を借り、概ね5年から30年の期間で返済しております。

ただし、借金の借りすぎは財政運営に大きな影響を与えるため、借りる際に十分に検討する必要があります。



平成24年度に111億5,130万円であった市債は、令和5年度には135億5,925万円となりました。令和5年度は、ミリカローデン那珂川のリニューアル事業や屋内プールの天井改修工事、中央公民館のトイレ改修などの事業に対し、市債を発行しました。

また、市債を住民一人当たりの金額におすと、約27.4万円の借金を抱えていることになります。

### ③職員の給与について～人件費～

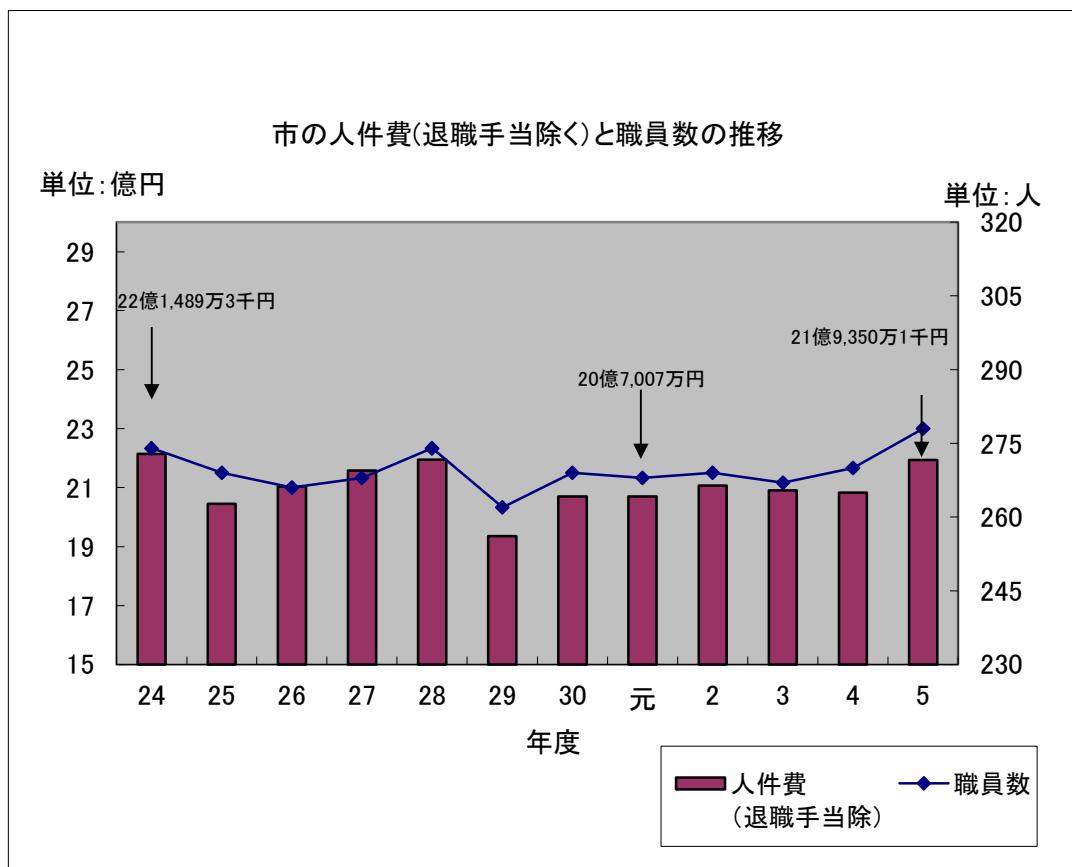
人件費とは、職員に支払われる給与のほか、共済組合の負担金（社会保険料の事業主負担金を含む）、議員や附属機関の委員へ支払われる報酬などの合計のことです。

令和5年度の人件費（退職手当・会計年度任用職員除く）は、21億9,350万1千円となっており、歳出の中でも高い割合を占めています。また、令和2年度より会計年度任用職員制度が開始され、令和5年度の会計年度任用職員の人件費は、5億9,831万2千円となっています。

近年は自治体業務の複雑化、市制施行に伴う行政機能の拡大への対応などのため、平成29年度に262人だった職員数を令和5年度に278人に増やしています。

歳出の中で高い割合を占める人件費は、行政サービスの質を高めつつ、適正な人件費となるよう取り組みを進めています。

なお、職員数と人件費(退職手当除く)の推移については次のとおりです。



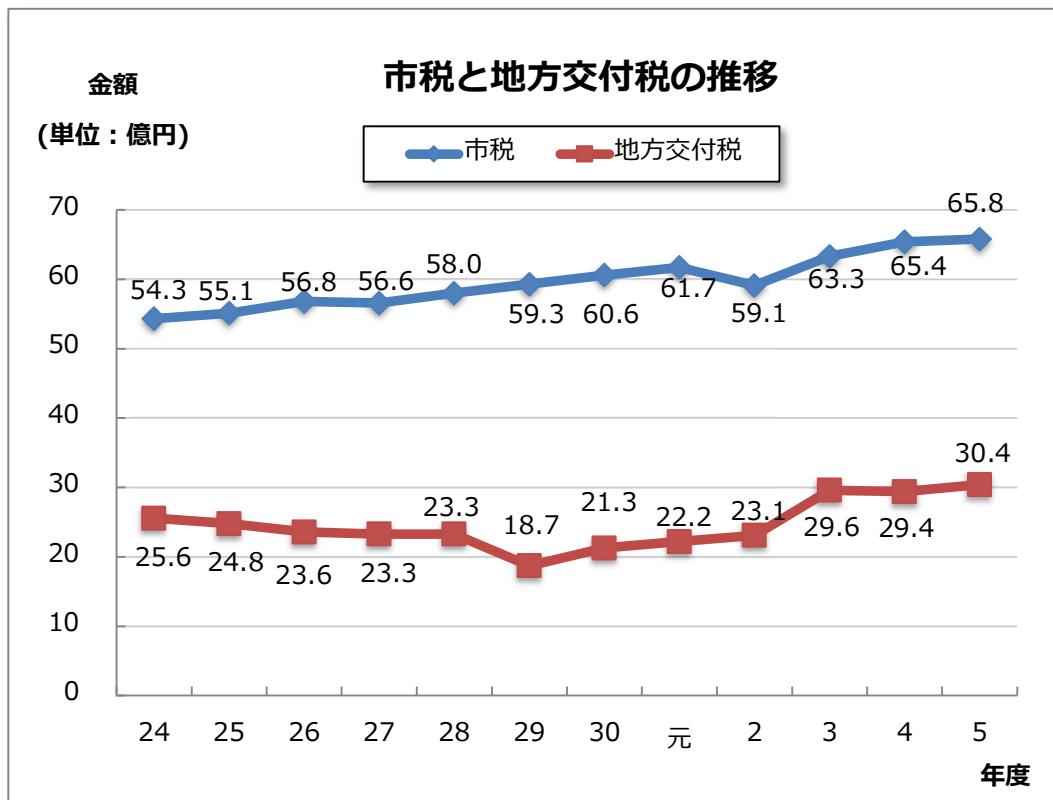
#### ④収入のゆくえについて～市税と地方交付税の動向～

収入で大きなものは、市税と地方交付税です。

市税とは、住民の皆さまが市に納める税金のことで、市民税、法人市民税、固定資産税、たばこ税などがあります。

地方交付税とは、使い道が制限されていない国から交付されるお金のことです。

下のグラフは、市税と地方交付税の平成24年度からの推移を示しています。



平成19年度に国から地方へ税金を納めてもらう権限が移されてからは、約54億円から約66億円の範囲で推移しており、令和5年度は約65億8千万円となりました。

一方、地方交付税は平成29年度に約18億7千万円まで落ち込みましたが、平成30年10月1日に市政施行したことを受け、県から権限が移譲された生活保護業務や児童扶養手当の支給などに要する経費が、算定に用いられたことで、交付額が増加傾向となっています。

現在、国が抱える借金は1,310兆円を超えており、財政状況は依然として厳しい状況であることを踏まえると、今後の国の動向を注視していく必要があります。

## 資料編

## 1. 収入と支出について（令和5年度決算）

### ①普通会計

#### 歳入

項目	金額	構成比
自主財源 93億6,900万8千円	市税	65億8,358万2千円 29.7%
	固定資産税	32億6,079万円 14.7%
	市民税	27億7,288万3千円 12.5%
	たばこ税	4億1,183万1千円 1.9%
	軽自動車税	1億3,387万1千円 0.6%
	入湯税	420万7千円 0.0%
	その他の収入	14億1,698万8千円 6.4%
	繰入金	9億848万1千円 4.1%
	寄附金	5億850万7千円 2.3%
	繰越金	6億4,498万円 2.9%
	使用料および手数料	2億4,569万5千円 1.1%
	諸収入	3億79万8千円 1.4%
	分担金および負担金	1億5,171万1千円 0.7%
	財産収入	2,525万4千円 0.1%
依存財源 127億7,115万4千円	国庫支出金	49億6,715万8千円 22.4%
	地方交付税	30億4,289万円 13.7%
	普通交付税	27億7,278万6千円 12.5%
	特別交付税	2億7,010万4千円 1.2%
	震災復興特別交付税	0千円 0.0%
	市債	15億1,633万5千円 6.9%
	県支出金	16億7,307万4千円 7.6%
	地方消費税交付金	11億3,895万7千円 5.1%
	その他国や県からの交付金	2億9,631万2千円 1.4%
	法人事業税交付金	8,867万9千円 0.4%
	地方特例交付金	5,618万4千円 0.3%
	ゴルフ場利用税交付金	4,434万円 0.2%
	配当割交付金	3,288万6千円 0.2%
	株式等譲渡所得割交付金	4,073万2千円 0.2%
	自動車税環境性能割交付金	2,225万3千円 0.1%
	交通安全対策特別交付金	839万4千円 0.0%
	利子割交付金	159万4千円 0.0%
	自動車取得税交付金	125万円 0.0%
	地方譲与税	1億3,642万8千円 0.6%
	合計	221億4,016万2千円 100.0%

(用語の説明)

自主財源：市が自らの手で徴収できるお金

依存財源：国や県から入るお金や借金でまかなうお金

**歳出(性質別：市で支出する経費をその経済的性質に分類したもの)**

項目	金額	割合
扶助費 児童手当、生活保護費、障がい者の自立支援給付費など	67億3,215万5千円	31.0%
物件費 光熱水費や施設の維持管理費、事務用品・備品購入費など	33億727万4千円	15.3%
人件費 職員の給与や議員などの報酬	28億2,789万7千円	13.0%
補助費等 団体や個人に対する負担金や補助金など	21億4,437万5千円	9.9%
繰出金 他会計(下水道事業や介護保険事業など)へ繰出すお金	18億2,107万4千円	8.4%
公債費 借入金の返済にかかるお金	13億3,931万1千円	6.2%
投資的経費 施設や道路を作ったり、災害復旧に充てたりするお金	25億7,463万2千円	11.9%
積立金 基金(市の貯金)へ積立てるお金	7億3,867万4千円	3.4%
維持補修費 施設や設備などの修繕を行うためのお金	1億4,098万6千円	0.7%
投資・出資・貸付金 他団体や中小企業へ出すお金	5,218万1千円	0.2%
予備費 不測の支出に対応するために準備しておくお金	0千円	0.0%
合計	216億7,855万9千円	100.0%

**歳出(目的別：市で支出する経費をその行政目的に合わせて分類したもの)**

項目	金額	割合
民生費 高齢者・障がい者・児童などの福祉施策、保育所運営などにかかるお金	96億5,063万8千円	44.5%
総務費 市役所の事務運営のためのお金 人件費、庁舎施設管理、電算システム管理委託料など	31億9,168万4千円	14.7%
教育費 市立の学校や幼稚園を運営などにかかるお金	28億3,725万1千円	13.1%
衛生費 ごみ収集、し尿処理委託料、住民健診など健康づくりのためのお金	18億1,166万1千円	8.4%
公債費 借入金の返済にかかるお金	13億3,931万1千円	6.2%
土木費 道路整備などのために必要なお金	10億9,593万3千円	5.1%
消防費 防災・防犯・交通安全と消防活動に必要なお金 春日・大野城・那珂川消防組合への分担金など	7億8,360万1千円	3.6%
商工費 商工振興のためのお金 中小企業融資預託金など	1億7,242万7千円	0.8%
農林水産業費 農業・林業振興のための経費で、改修工事など施設整備のために必要なお金	2億4,145万5千円	1.1%
議会費 市議会運営に必要な議員報酬などのお金	1億6,197万円	0.7%
災害復旧費 災害がおこった場合の復旧するためのお金	3億9,262万8千円	1.8%
合計	216億7,855万9千円	100.0%

## ②特別会計

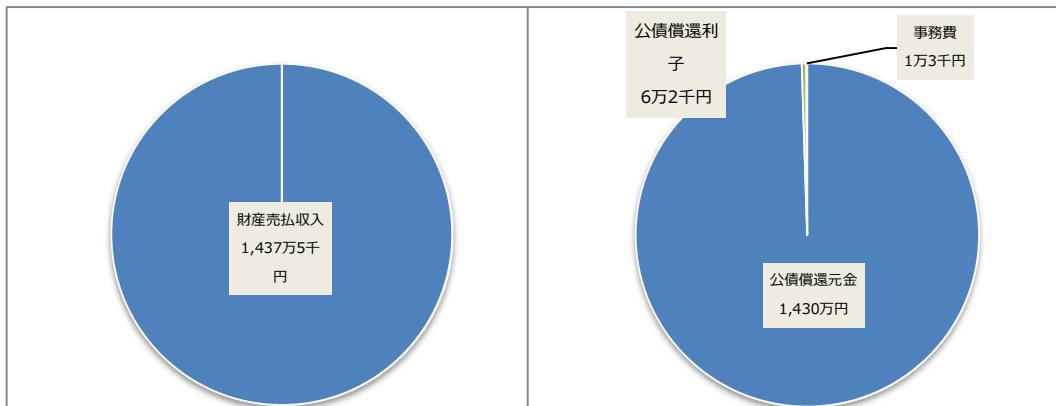
このページからは、特定の事業を実施するために特定の料金収入などで運営するもう1つのお財布である特別会計について説明します。

### (1)公共用地先行取得事業特別会計

後野区内で現在整備を進めている総合運動公園の用地を取得するため、平成30年度に新設された会計です。

(歳入) 総額：1,437万5千円

(歳出) 総額：1,437万5千円

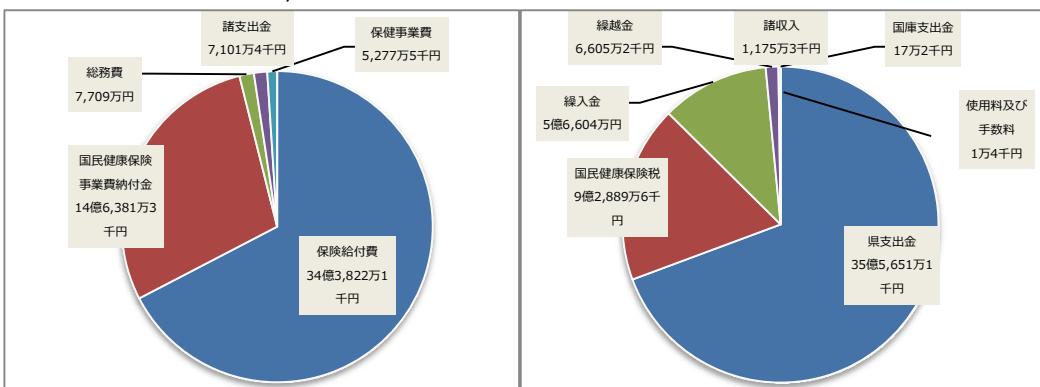


### (2)国民健康保険事業特別会計

社会保険に加入していない方が加入する保険で、国民健康保険税、医療費、特定健診・特定保健指導(各医療保険者が生活習慣病予防のために行う健康診断や生活習慣改善のための保健指導のこと)などの国民健康保険事業に関するお金の出し入れを管理する会計のことです。

(歳入) 総額：51億2,943万8千円

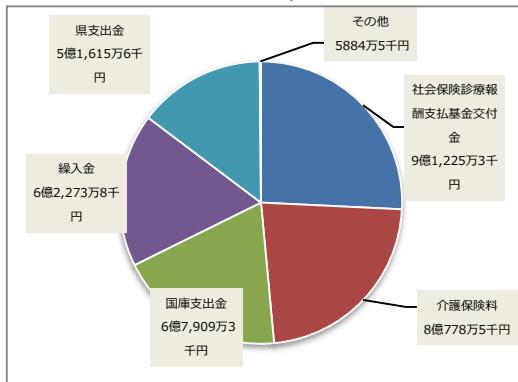
(歳出) 総額：51億291万3千円



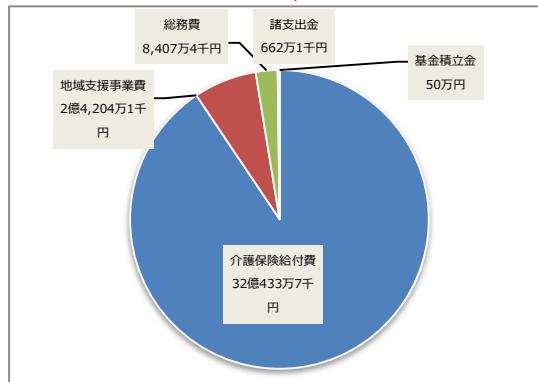
### (3) 介護保険事業特別会計

介護保険料、介護サービス(ホームヘルプ、訪問リハビリテーション、施設入所などサービスで要介護1~5の人が受けるサービス)や介護予防サービス(サービスの種類は介護サービスと同様で要支援1・2の人が受けるサービス)などの介護保険事業に関する会計のことです。

(歳入) 総額：35億4,387万円



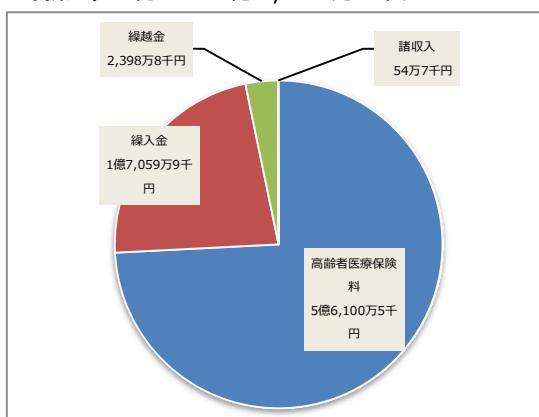
(歳出) 総額：35億3,757万4千円



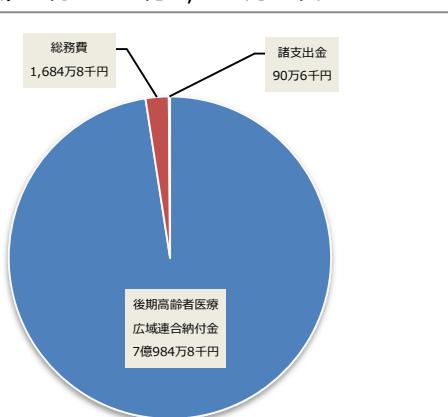
### (4) 後期高齢者医療特別会計

平成20年4月から老人保健特別会計に変わって創設された、75歳以上の方を対象とした医療制度に関する会計のことです。

(歳入) 総額：7億5,613万9千円



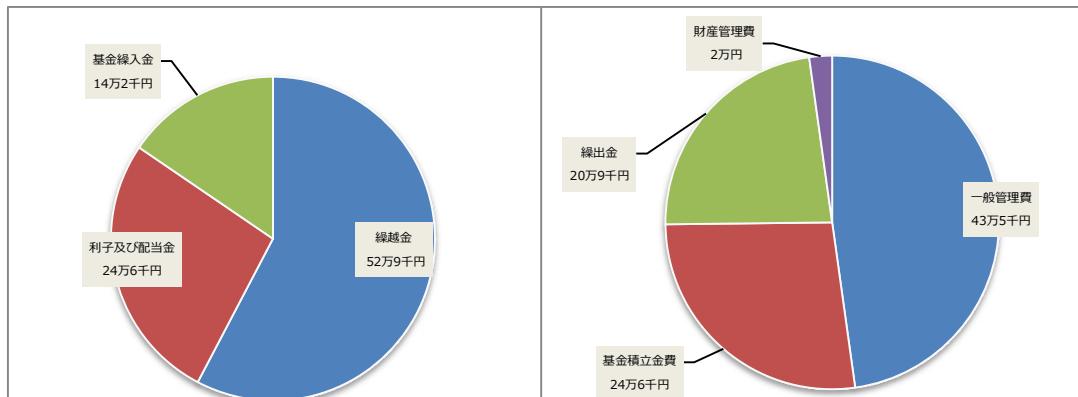
(歳出) 総額：7億2,760万2千円



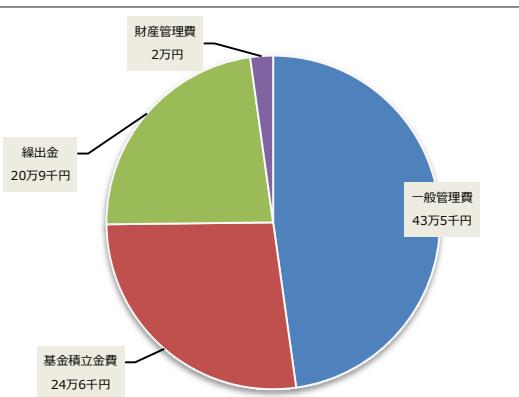
### (5)岩戸財産区特別会計

旧岩戸村が所有していた財産を管理するための特別会計です。

(歳入) 総額：91万7千円



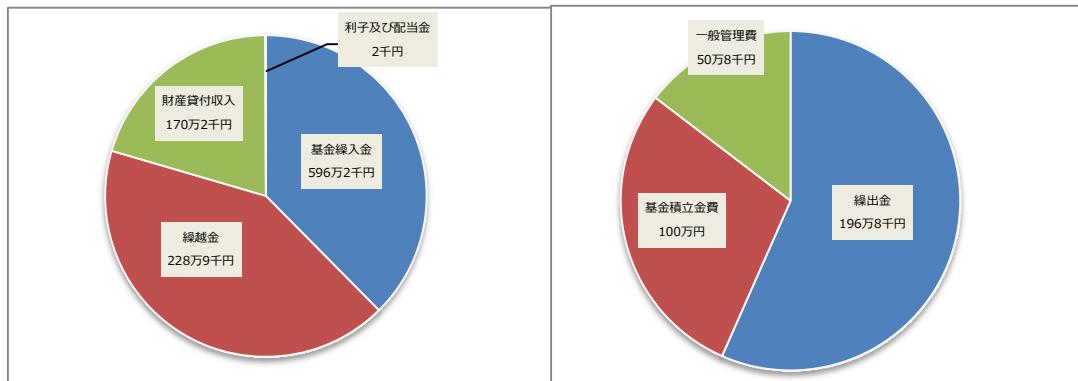
(歳出) 総額：91万円



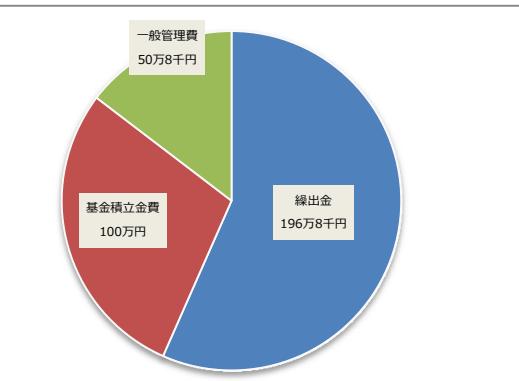
### (6)安徳財産区特別会計

旧安徳村が所有していた財産を管理するための特別会計です。

(歳入) 総額：405万4千円



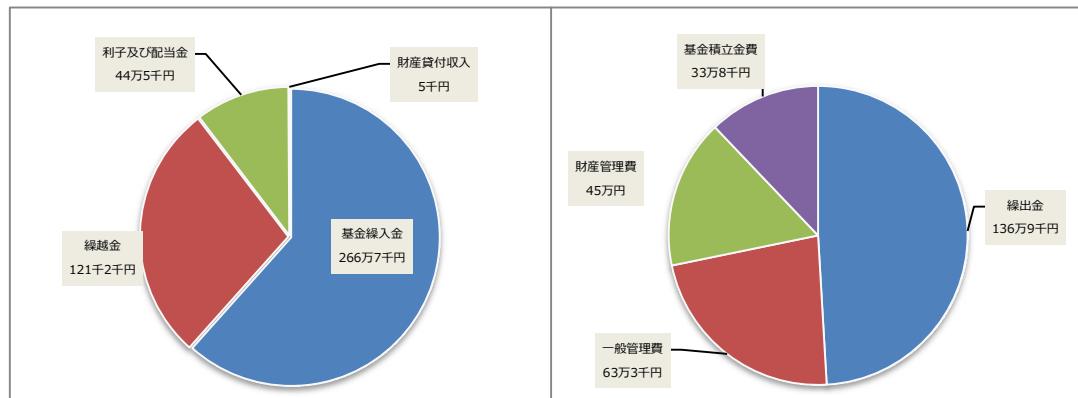
(歳出) 総額：347万6千円



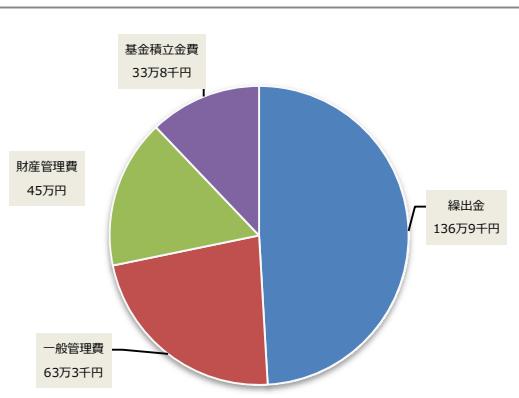
### (7)南畠財産区特別会計

旧南畠村が所有していた財産を管理するための特別会計です。

(歳入) 総額：432万9千円



(歳出) 総額：278万9千円



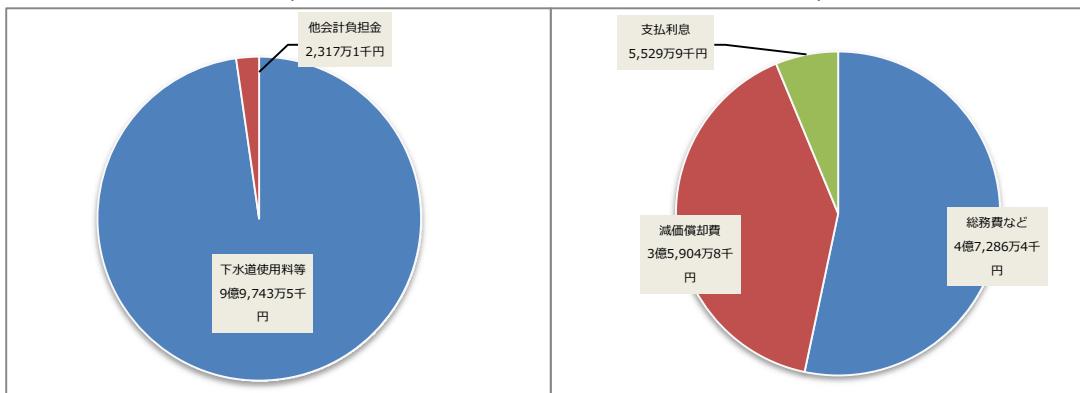
## (8)下水道事業会計

### (収益的収支)

下水道使用料、下水道関係施設の維持管理費や減価償却費、建設時に借りたお金の支払利息などの経営に関するお金のことです。

(歳入) 総額：10億2,060万6千円

(歳出) 総額：8億8,721万1千円

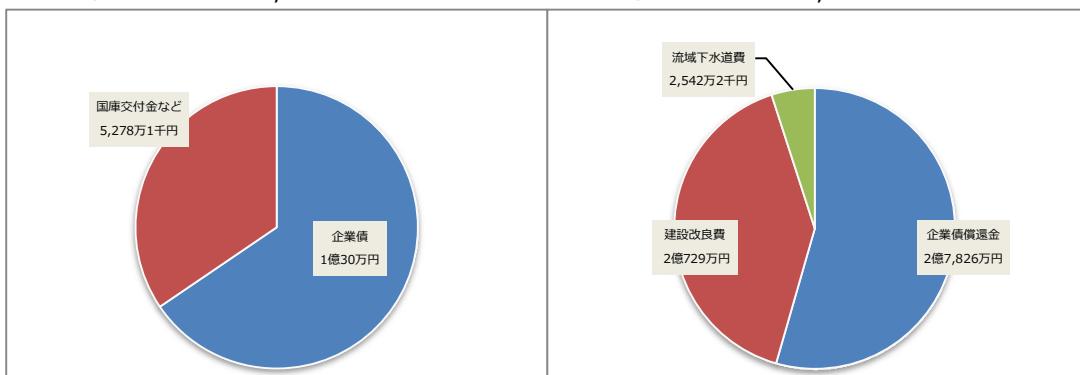


### (資本的収支)

下水道関係施設の建設や改良のための経費、建設のために借りたお金、建設時に借りたお金の償還金などの施設の建設に関するお金のことです。

(歳入) 総額：1億5,308万1千円

(歳出) 総額：5億1,097万2千円



※なお、歳入不足額3億5,789万1千円は、消費税及び地方消費税資本的収支調整額と損益勘定留保資金、減債積立金で補てんしました。

## 2. 市の家計の疑問(補足)

### ①市の健康状態～プライマリーバランス～

収入から新たな借金（市債発行額）を引いた金額と、支出から借金を返済する経費（以下「公債費」という）を引いた金額の差で、基礎的な財政収支のことをいいます。すなわち、その年度のサービスの提供に要した金額と住民の皆さまが負担した金額を表す数値ということができます。

黒字の場合は、公債費以外の支出を市債以外の収入でまかなっていることになり、健全な状態といえます。

一方、赤字の場合は、実際にサービスを受けている世代（現役世代）が自ら負担した以上のサービスを受けたことで、公債費以外の支出が市債を発行しなければまかなえず、将来の世代に負担を先送りしている状態であると言えます。

令和5年度普通会計決算におけるプライマリーバランス

(単位：千円)

収入 (総額) A	市債 (借入金) B	収入 (市債除く) C=A-B	支出 (総額) D	公債費 (返済金) E	支出 (公債費除く) F=D-E	プライマリ ーバランス C-F
22,140,162	1,516,335	20,623,827	21,678,559	1,339,311	20,339,248	284,579

【算式】

$$\begin{array}{rccc}
 \text{収入} & & \text{支出} & \text{プライマリ} \\
 & - & & \text{ー} \\
 \text{(市債除く)} & & \text{(公債費除く)} & \text{バランス} \\
 20,623,827 \text{ 千円} & - & 20,339,248 \text{ 千円} & = 284,579 \text{ 千円の黒字}
 \end{array}$$

